

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原料料名	原産国	含有区分	文庫	症例	通正 使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
409	2007/08/28	70409	シェリン グ・ブラウ	インターフェロンアルファ-2b(遺伝子組 換え)	人血清アル ブミン	人血液	米国	添加物	有	無	無	異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	HPA/Health Protection Report 1(3) 2007年1月19 日	英国で4例目の輸血関連vCJD可能性例が診断された。こ の症例は供血後約17ヶ月でvCJDを発症したドナーからの 赤血球輸血を受け、8年半後にvCJDを呈した。このドナー は3例目の輸血関連vCJD症例へのドナーでもある。4例 目の症例はプリオン蛋白遺伝子のコドン129がメチオニン ホモ体であった。まだ生存中である。
												梅毒	Public Health Agency of Canada/Infectious Diseases News Brief 2007年1月19 日	中国は1960～1980年の20年間に梅毒を減少させたことが できたが、中国の社会的な本質的な変化により、性感染症が 再び流行している。中国における報告された梅毒の全症 例発生率は、1993年には100,000人あたり0.2例であった が、2005年には、第一期及び第二期梅毒だけで100,000 人あたり5.7例であった。先天的な梅毒の発生率は、1991 年には100,000例の出生児あたり0.01症例であったが、2005 年には100,000例の出生児あたり19.68症例まで、年平均 71.9%の割合で大きく増加した。
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Lancet 2006; 368: 2061-2067	vCJDを発症した供血者の輸血を受けた患者が神経学的 徴候を発現し、National Prion Clinicへ紹介され、vCJDと 診断された後、MRC PRION-1 trialに登録された。患者が 死亡した際、剖検時に脳と扁桃腺の組織を得、免疫ブ ロッキング法および免疫組織化学検査により異常プリオ ンの存在を調べた。剖検により診断が確認され、扁桃腺 のプリオン感染が示された。扁桃腺の生検は、BSEプリオ ンの1次感染患者と同様、医原的曝露を被った他の高リ スク患者においても、早期の症状発現前診断を可能にす る。
												ハンタウイルス	Epidemiol Infect 2006; 134: 1333- 1344	ドイツ南東部Lower Bavariaにおけるハンタウイルス感染 の流行は2004年4月から始まった。血清学的、遺伝子的 調査の結果、同地方のハタネズミ集団がPuumala virus (PUUV)の有力な宿主であることが明らかとなった。異な る4箇所で捕獲されたハタネズミに由来する部分的な PUUV-S セグメントのヌクレオチド配列は、多様性が低 かった(≤3.1%)。このPUUV配列が2004-2005年のヒトハン タウイルス感染者数の増加の原因と考えられる新規の PUUVサブタイプの特徴である。